坂上ものがたり

三

文政九年

へ13
2378
349

遠13
2378
349

春の眠に暁を覚ぬすれ筆づさ去年の柳の乱髪顔に紅葉てり
たきそひ行よゆくと細布ぬれ木塚の古墳と躑躅が岡の歌まで前
後合てむつの四点ぞよぬーとこゆき野の千三年も琴けをの萩のまろ
三ゐのとん金猪の床の佐夜ふけて夜ふけまよ人目を信夫摺り浮雲草名取
川流れの末のきさらぎと千府の菅ごも七府ゆ君と妹りて三府に我寝
れ序風の蝶つび末の松山仲の町ごろも櫻の下草に順し礼歌の連ぶみうたよ
天りいちえもも深きよりと寺忠と孝の法の路はぞの石文歌討ぐ
度札所を打納大慈大悲の観世音誓を掛くるやとり川金竜山花の雲霞
の網ー引汐の浪ーもられく都島八幡鐘の朝ひ爰ようでの草場町鐘
ー渡端甲塚昔を今に江戸砂子書つぎもる繪双帋ぞと四方の君子ん
賢に呈ま。　七代目市川三升

ぬよかりく　五柳亭徳升述

根元志ぞうく

其比の兵せりゆ

一太平樂の樂の名と歌舞伎も樂のたち

元祖市川團十郎荒事えびの所をとりつく去ぬる酉年顔見世男山惠源氏第一番目六立目大詰より鎮西八郎為朝之役ゆく七代目市川團十郎相勤之此口画本文とう時代相違をとらくども只古代の所を五渡亭國貞ぬ〜と筆づさゝよ御覽よ入奉るふなん

海苔屋

江戸

昔の人

役者ゆく

團十郎

たの三外

保元

平治の軍

鬼が嶋

六条判官為ようが八男鎮西八郎為朝面像をあらはしたてまつれば

長寿をなりつそれぞ

○そもじまするうくうくたろくがさろの者つげまぢを乗づろの

ござるの祖にあそつてどざめがよろうとそん〜仕

油の浦

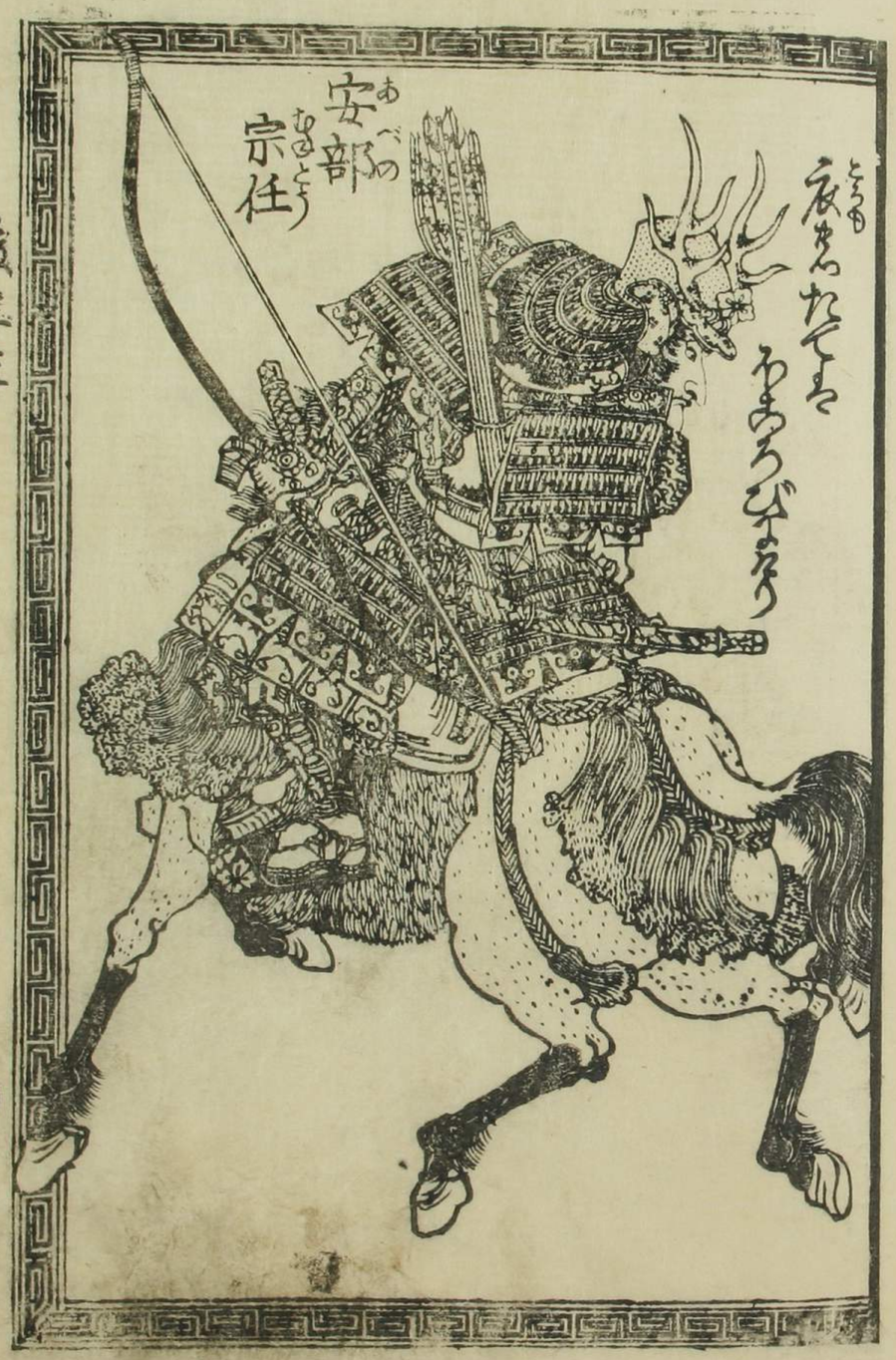
七代目

市川三郎

安部貞任
我國の梅も花とも
善知鳥妻
錦木

見せ捨ども
おわるもの人を
何ぞ
いつ
らを
荒巻
耳四郎
照門

源義家公
年代
庵
糸は乱れの
くるはよ


安部の宗任
夜もすがら
ねもうびとり

宮城野
母
初霜

間野
三多次郎
照良
奥女中
信夫

貞
安

宮
田
十
根
荒
絲

荒

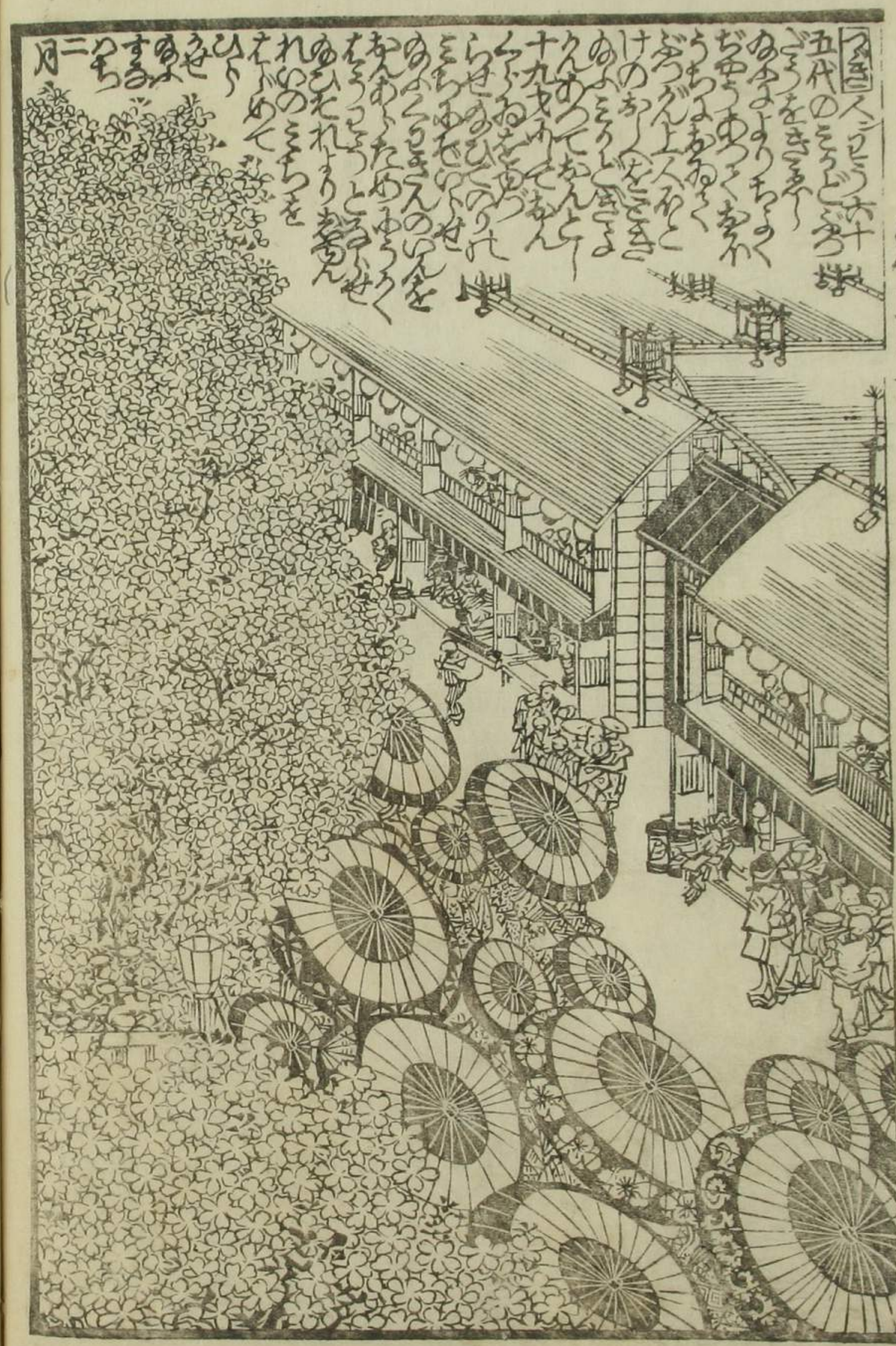
宮
俗

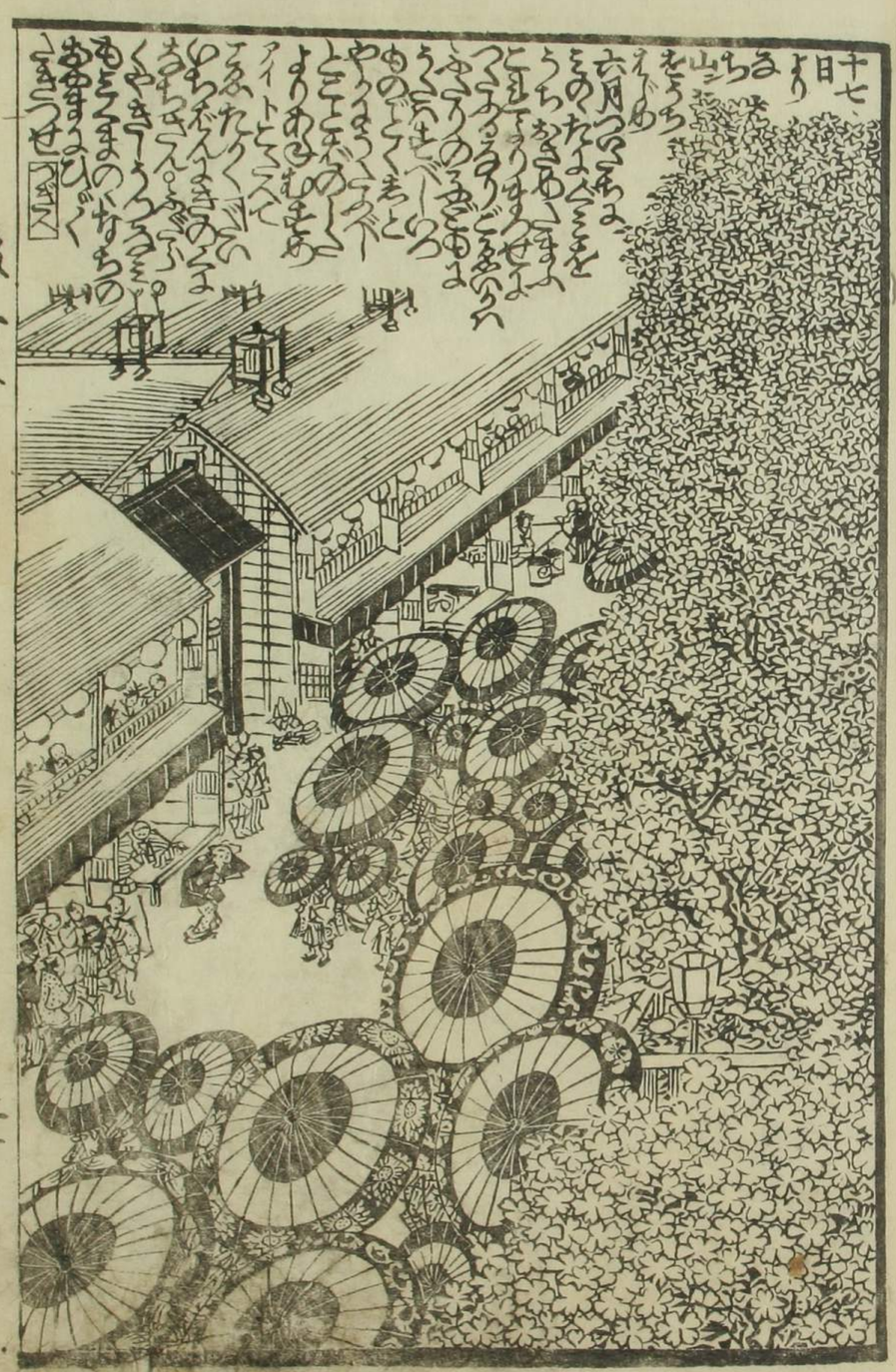
國貞画 三升作

筆畊金川

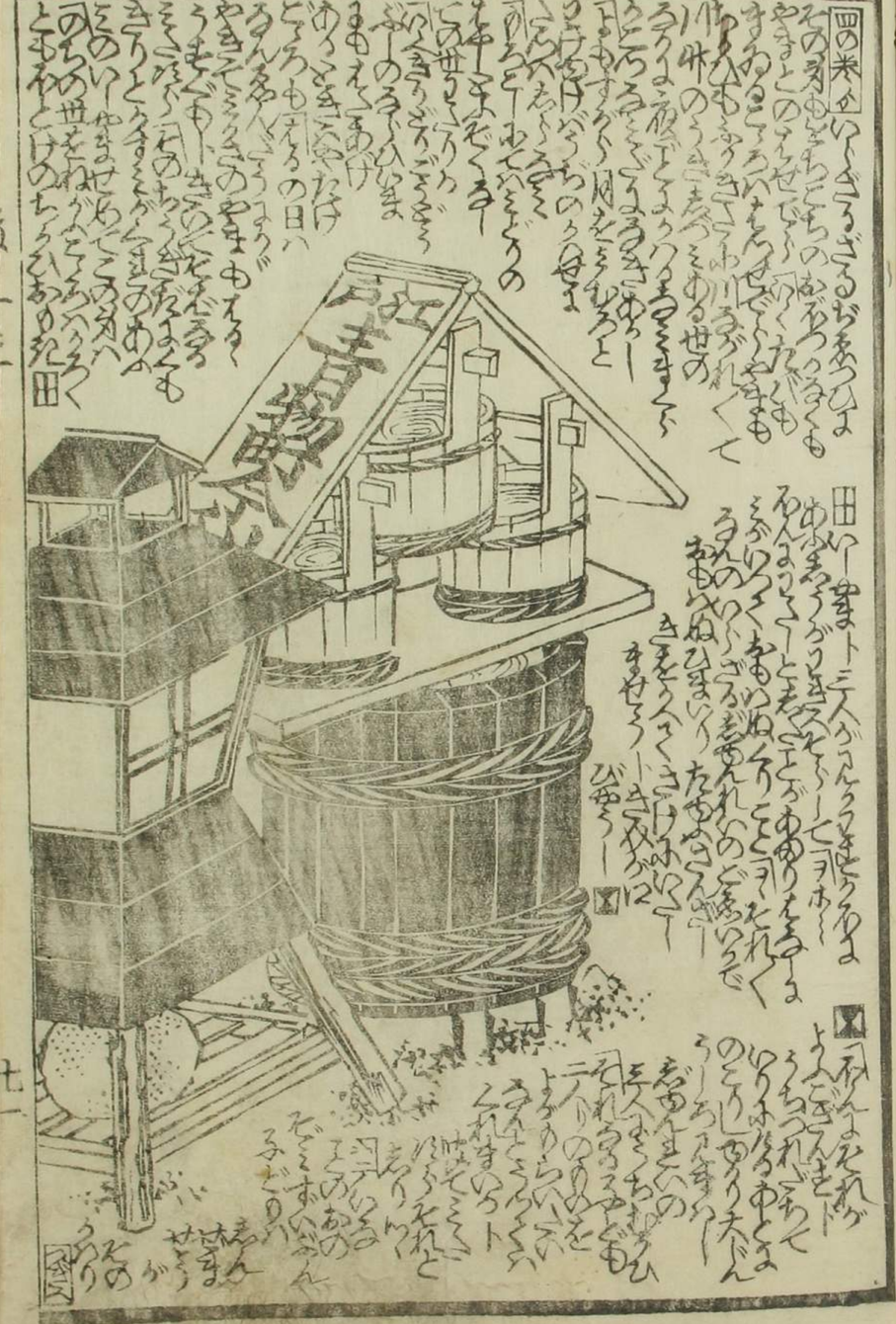
奥州
ちゃう
ちゃう川

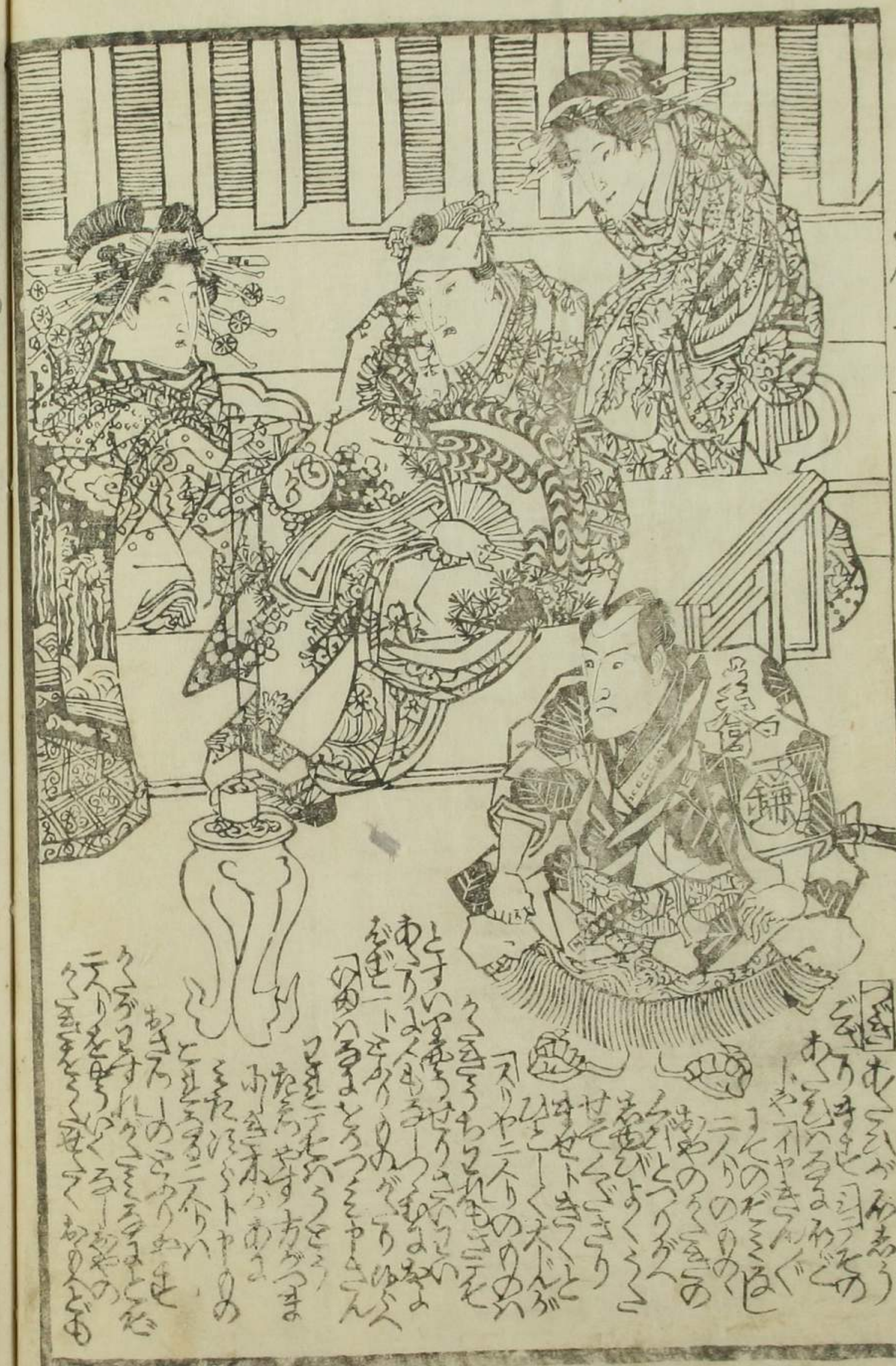
落城
らくじゃう
の図
づ

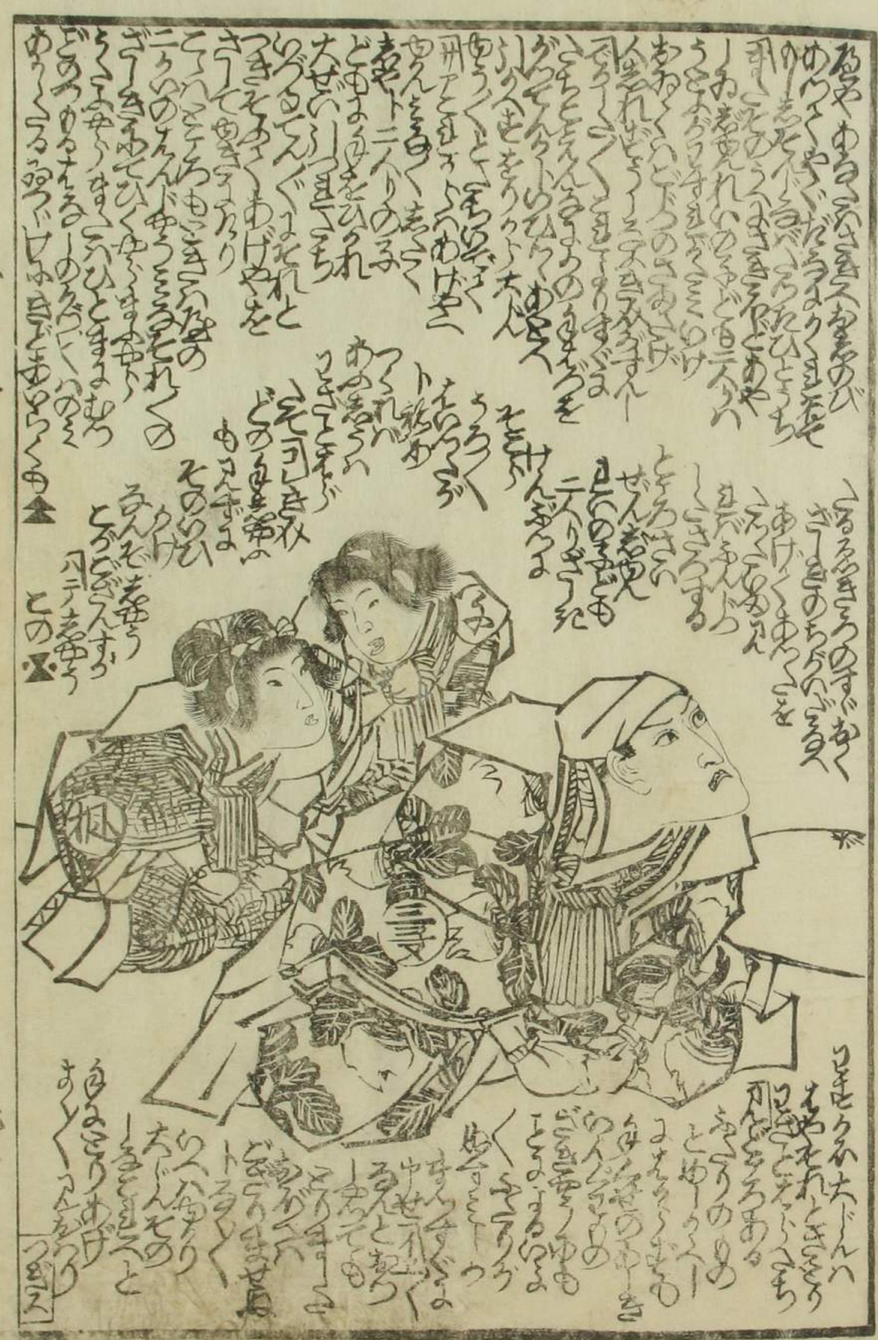

二月



逢
様







仙女香

貞
京

五渡亭國貞画 市川三升作

文政九丙戌春新版

高尾十三郎 伊達模様雲稲妻 六冊 山東京山作 哥川豊國画

傾城揚羽蝶花形 六冊 市川三升作 哥川豊國画

後三年手煙義家 六冊 市川三升作 哥川國貞画

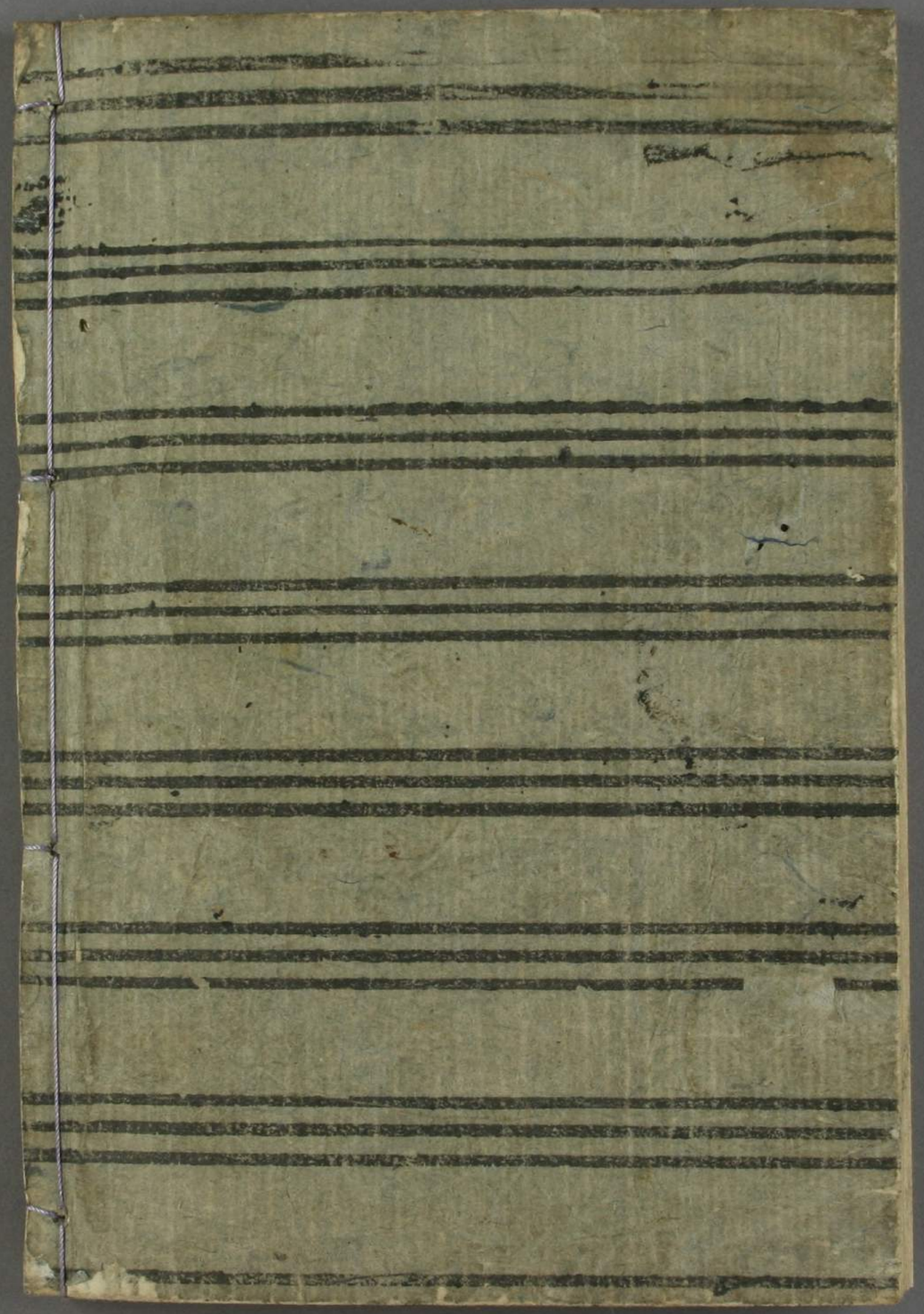
[illegible] 六冊 [illegible] 哥川國貞画

天眞方粒王丹 熱陽差製 一度金百疋 小粒金一百文 大人小兒[illegible] 和泉屋七郎兵衛

美艶仙女香 四文の茶一包 四十八銅 坂本氏

百藥香 [illegible] 百藥盞 [illegible] 大坂屋新兵衛

[illegible] 六冊 哥川國貞画

[illegible] 前編 [illegible] 地本問屋 江戸日本橋青物町 文芳堂

[illegible] 後編六冊 出板 [illegible] 今利屋五藏板